FIDIC Global Infrastructure Conference

CAPE TOWN 2025
21-23 SEPTEMBER

FIDIC2025
大会報告会資料

日時：2025年10月27日（月）　14：30～17：00

会場：ECFA7階会議室またはオンライン
（ハイブリッド開催）

主催：（一社）海外コンサルタンツ協会

協賛：（公社）日本技術士会

FIDIC2025 ケープタウン大会 報告会 プログラム

日時：2025年10月27日（月） 14：30～17：00
会場：ECFA7階会議室またはオンライン（ハイブリッド開催）

司 会 ： FIDIC活動分科会長 春 公一郎

				時間
14:30	開会の辞	FIDIC活動分科会長	春 公一郎	5分
	FIDIC大会総括	ECFA専務理事	高橋 政行	

14:35 報 告 ー前半ー

敬称略

	英題	邦題	報 告 者	時間
1	FIDIC GAM/FIDIC大会総括	FIDIC GAM/FIDIC大会総括	高橋 政行	10分
2	President meeting, DNS meeting	プレジデントミーティング	高橋 政行	10分
3	Main Conference Programme – Day 1 Panel Session 2 – Delivering infrastructure for society, equality, climate and nature	メインカンファレンスプログラム 1日目 パネルセッション 2 –社会、平等、気候、自然のためのインフラ整備	瀬戸 雄太	10分
4	Panel Session 3 – How to finance infrastructure	パネルセッション 3 –インフラの資金調達方法	新地 貴博	10分
5	Panel session 4 – The FIDIC Carbon Collaboration Initiative in practice: Measuring and managing carbon in infrastructure	パネルセッション4 – FIDICカーボン・コラボレーション・イニシアチブの実践：インフラにおける炭素排出量の測定と管理	勝濱 良博	10分
6	Main Conference Programme – Day 2 Panel session 1 – Delivering infrastructure with integrity, quality and sustainability – leading by example to deliver a better society	メインカンファレンスプログラム 2日目パネルセッション1 – 誠実性、品質、持続可能性を備えたインフラ整備 – より良い社会の実現に向けて模範を示す	瀬戸 雄太	10分

15:45-16:05 休憩 20分

16:05 報 告 ー後半ー

	英題	邦題	報 告 者	時間
7	Panel session 2 – Infrastructure showcase – global engineering excellence and projects that are changing the way we deliver	パネルセッション2 – インフラショーケース – グローバルなエンジニアリングの卓越性とインフラ整備のあり方を変えるプロジェクト	松本 幹太	10分
8	Panel session 3 – AI and digitalisation	パネルセッション3 – AIとデジタル化	松本 幹太	10分
9	Panel session 4 – Global leadership – vision given uncertain times	パネルセッション4 – グローバルリーダーシップ – 不確実な時代におけるビジョン	赤坂 和俊	10分
10	The FIDIC Future Leaders Management Certificate	FIDIC若手プロフェッショナルマネジメントトレーニングプログラム	柳原 健人	10分

16:45 閉会の辞 狩谷 薫 ECFA理事・FIDIC委員会委員長 5分

Overview of FIDIC 2025 in Cape Town

FIDIC 2025 ケープタウン大会総括（総会（GAM）を含む）

ECFA　専務理事
高橋　政行

日時：2025 年 9 月 20 日～23 日（Pre-conference 含む）
場所：Cape Town International Convention Center（CTICC）

1. **概観**

大会テーマ；「スマートインフラ:　持続可能な世界のための平等、レジリエンス、イノベーション；　Theme－Smart Infrastructure: Equality, Resilience and Innovation for a Sustainable World.」

開催地の選定；南アフリカが今年のＧ２０の開催地

インフラ業界の大会ではあるが、世界中の政府が注目する社会インフラも視野に入れた包括的な開発に貢献する大会としての自負

参加者約 700 人

2. **日程概要**

9 月２０日（1 日目）

FIDIC Member Association（MA）Forum；幹部と MA 間のインタラクティブな交流の機会

(1) 冒頭参加 MA 全員が集合（4-50 名程度；幹部の他、アフリカ MA が目立つ）DNSAC などから挨拶

(2) テーブルワークショップ；
テーマ；MA の 5 つの Challenge と 5 つの opportunity→各テーブルから発表

(3) Growing together;　knowledge sharing program ブレークアウトルーム２X２回（計４つ）テーマ；

① Effective governance（FIDIC のガバナンス改善に向けて）、

② Member engagement and volunteers（FIDIC にとってのボランティアの重要性）

③ Attracting Talent

④ Affective advocacy

＊①、②に参加したが、要は FIDIC と MA の運営改善・強化のための分科会。

(4) President、次期 president、CEO　の 3 者のトークセッション；

現プレジデント Catherine Karakatsanis 氏、次期プレジデント Alfredo Ingletti 氏、新 CEO（5 月就任）　Susanna Zammataro 氏の３人でトークと Q&A；包括的な社会建設に貢献するインフラ業界の重要性、若手エンジニアの減少対策、キャパビル、横の繋がり、コミュニケーション活発化、アドボカシーなどについて語り合われた。

（＊以下の５，６と７は並行開催）

(5) FIDIC team と Future Leader Advisory Council（７．参加の為欠席）

(6) DNS（事務局長会議）（メンバーのみ、小職は並行する７．に参加）

(7) President meeting（各 MA トップ（代理）の会合）（５．６．と並行して）

FIDIC 理事ボードと各国代表が参加したコミュニケーションの場；

新旧プレジデント挨拶後、各国（18 か国）代表が自己紹介と近況報告及び FIDIC への要望などを話した。

10 年ぶりにアフリカ地区会議が開催されたこと、パキスタンでは（定例化していない）Asia Pacific 地区中間期大会（Midyear conference）を同国ＭＡのイニシャティブで開催し成功したことなども。インドネシア（Enni 新理事）は、MA の 3 分の２は途上国であり先進国 MA とは事情が異なる中、途上国メンバーにとって FIDIC メンバーのメリット提示・共有する必要性を危機感を持って訴えたていた。欧州のメンバーから、人材の確保・養成、アドボカシー（政策提言）の重要性を述べる代表もあった。

当方から日本の業界の特徴として ODA の実施が９割近くを占めるが、ODA の拡大が期待できない中ノン ODA 事業の拡大が重要であり、FIDIC の横の繋がりからの学び、新事業機会

などで一層の連携期待を表明した。

9 月 21 日（2 日目）Pre-conference@大会場

(1) FIDIC　Global Showcase；

FIDIC の１０のコミッティー((ビジネスプラクティス、インティグリティ、サステーナブルデベロップメント、フューチャーリーダー、コントラクト、メンバーシップ、DX、インターナショナルファイナンス、ダイバーシティ＆インクルージョン、DNS)）の代表が登壇して、パネルディスカッション形式で活動や計画の報告を行った

(2) FIDIC Insight to the future

4 人の中堅エンジニアが新しい時代を見据えた新技術や手法、考え方などについて意見を交わした。

(3)　FMLC（Future Leaders Management Course（若手向けマネジメントコース））

今期コース終了生代表の１グループ（3 名）のプレゼンテーションと卒業生全員での写真撮影

(4) FIDIC 総会(GAM;General Assembly Meeting)

ECFA（日本）は（6600 名の従事者総数から割り出し）３票の権利；高橋の他、FIDIC 委員会から赤坂和俊氏（日水コン執行役員/海外事業部長)、新地貴博氏（八千代エンジニヤリング海外事業部マネージャー）に参加頂いた。

概要は以下のとおり；

① 議事は FIDIC President、Ms Catherine Karakatsanis が進行。

② 2024 年度大会の議事録確認。(annex 1).

③ FIDIC 過年度活動の報告と 2026-2030 の新戦略の発表

新 CEO の Ms. Susanna Zammataro が４つの目標からなる新戦略を発表。目標の概要は以下；

▶ 目標 1：業界および積極的に関与する会員に価値を提供する信頼されるグローバル団体としての地位を強化する

▶ 目標 2 ミッションを推進するために適応・革新し、会員や業界に価値を提供する

▶ 目標 3：ベストプラクティス、標準契約、認証および研修を通じて産業の文化と能力を向上させる

▶ 目標 4 コンサルティングエンジニアの重要な役割とポジティブな影響を提示する業界アドボカシー（政策提言等）を主導する

＊これらは、技術、将来を担う人材、効果的なコミュニケーションによって可能となる

④ 2024-2026 年の会計報告と予算

2024 Final

	FIDIC	FIDIC Credentialing SA	FIDIC Consulting Services (Beijing) Ltd	Combined total
INCOME	5,926,948	489,762	147,206	6,563,916
EXPENDITURE	6,076,113	424,679	51,306	6,552,098
SURPLUS/ (LOSS)	(149,165)	65,083	95,900	11,818

2025 Re-forecast

	FIDIC	FIDIC Credentialing SA	FIDIC Consulting Services (Beijing) Ltd	Combined total
INCOME	5,530,403	595,531	81	6,126,015
EXPENDITURE	5,551,580	511,096	40,287	6,102,964
SURPLUS/ (LOSS)	(21,177)	84,435	(40,206)	23,052

2026 Budget

	FIDIC	FIDIC Credentialing SA	FIDIC Consulting Services (Beijing) Ltd	Combined total
INCOME	5,770,400	651,686	42,375	6,464,461
EXPENDITURE	5,890,000	572,500	51,748	6,514,248
SURPLUS/ (LOSS)	(119,600)	79,186	(9,373)	(49,787)

MA からの会費収入を減らしている（会費制度の改正による）が、コスト削減や研修、認証等（別会社化した事業との合算）でバランスをとっている。

⑤ 新規会員（Member Associations（MAs））について:

・Cámara Panameña de Consultores (CAPACO), **Panama.** が新規会員として承認された。

・“Interstate Consultants Engineers Guild”（ICEG), **Ukraine.** が新規会員として申請があったが、ウクライナからは既に AECU が会員登録されている。MA は 1 カ国 1 協会の原則があるので、ウクライナについては、特別委員会を設置して継続検討することが承認された。

⑥ 2026 年の FIDIC 大会開催地と時期

2026 年は 9 月 13－15 日にニューデリーで開催されることが発表された。さらに(2027 年)はローマと決定したことも報告された。

⑦ FIDIC 各委員会等での功労者及び研修プログラム修了者の表彰

FIDIC 各委員会等でのボランティア等の功労者及び Future Leaders Management Course（FLMC）修了者、FCL の Credentialing

Certification Programs 修了者の表彰

⑧　FIDIC 規定の改定

「直近に引退したプレジデントは１年間のみ完全な投票権のある理事ボードメンバーとして残留する」と改定された。

⑨　新理事の発表

先般行われた電子投票の結果が選挙委員会から発表され、以下の新理事が紹介された；

・Benoit Clocheret, chief executive Officer of ARTELIA in France

・ Tina Karlberg, president of Sweco International from Sweden

・Irakli Khergiani, founder of Intelligent Solution from Georgia

・Enni Soetanto, senior advisor at Mott MacDonald in Indonesia

日本（ECFA）はインドネシア、ニュージーランド、メキシコ、コロンビアの候補者に投票したが、当選はインドネシアの Ms. Enni のみ。

これによりアジア・大洋州地域からは２名となるが、南米、中近東から輩出されないまま、アフリカは１名となる。

⑩　新プレジデントと副プレジデントの選定

理事ボードの指名を受けた以下の新プレジデント、副プレジデントを承認した。

・プレジデント； Alfredo Ingletti
（イタリア）

・副プレジデント；Manish Kothari　（米国）
Adam Bialachowski（ポーランド）

⑪　その他

FIDIC 各賞の受賞者発表と授与は最終日の GALA ディナーで行われるとされた。

（＊Gala ディナーでは日本からオリエンタルコンサルタンツグローバルの Jamuna Rail Bridge Project（バングラディシュ）が大賞を受賞した。）

9 月２２日～23 日（3－4 日目）　GIC　本大会

＊詳細は各報告者の報告を参照願います。

・基調講演；

Trevor Manuel　氏：20 年間にわたり民主化後の南アフリカの財務大臣、貿易産業大臣、大統領府大臣（国家開発計画策定）などを歴任。世界を見渡して地域ごとのインフラ開発の現状や課題について概観。アジアではインド、中国の発展に言及するも日本にはなし。アフリカは発展しつつあるもスケールアップが必要。長期的視点の投資を求めること、Ｇ２０が南アフリカで開催されることに期待、など

３．所感；

（１）　FIDIC 幹部の目的意識

Pre-conference では、出資者でもある MA に対して、FIDIC が如何に有用で各協会にとっても意味のあるものかを感じ取ってもらいたい、という背景的な意図・主旨を思うと、日程やその内容が整合性あるものとして理解できた。プレジデントをはじめ運営幹部は繰り返し、会員間の共有、支持、協働の大切さを語り、それを感じ取ってもらうメニューを用意していた。

予算健全化の努力もアピールしていた。

（２）　日本のプレゼンス

・日本からの参加者は、地球の裏側での開催であったにもかかわらず、16 名の参加が得られたことは大変頼もしく思われた。

・受賞；FAP 大会に続き本大会でも OCG のプロジェクトが受賞し、メガプロジェクト部門の筆頭で授与された；

受賞案件；Jamuna Rail Bridge Project, Bangladesh

（３）　会議ノウハウ

会場はケープタウンに 1999 年に建設された大きなコンベンションセンターで G20 関連会合でも使用されるもの。

モバイルによる全ての案内の周知（アプリ；Attendee Mobile)、電子投票システム、や会場ライブ投票システム（LIVE POLL）を活用したオーディエンス参加型のプレゼンテーション、本大会（22－23 日）でのオーディオ・トランスレーション・アプリケーション（アプリ；Wordly Audio Translation Services）を活用した複数言語（日本語を含む）での同時通訳サービスなど、新技術を随所で活用する工夫が見られた。

以上

英題：Delivering Infrastructure for Society, Equality, Climate and Nature
邦題：社会・公平・気候・自然に資するインフラ実現

日本工営株式会社
上下水道設計部
瀬戸　雄太

日時：2025 年 9 月 22 日
講演者：Ines Ferguson（Tooksa／EFCA）, Cerin Maduray(WWF)
Prashant Kapila - Intercontinental Consultants and Technocrats / FIDIC,
Risimati Mathye - Department of Water and Sanitation,
Wojciech Szewczak - KEO International Consultants

1. パネル概要

本パネルでは、「社会的公平性」「気候レジリエンス」「自然との共生」を統合したインフラ開発のあり方について、政策・金融・設計実務の各観点から議論が行われた。インフラは単なる建設物ではなく、「人を中心とした社会のレジリエンス」を形成する基盤であるとの認識が共有された。

2. 各地域の取り組み

南アフリカでは、水・衛生分野におけるアクセス格差是正を目的とし、官民連携による新たな資金調達モデル（ブレンデッド・ファイナンス）の設計が進められている。政府拠出 20%、事業規模 28 billion ZAR により、約 350 万人への恩恵が見込まれる。一方、EU ではカーボンニュートラルとレジリエンスを両立する「Clean Industrial Deal」を推進し、脱炭素化とシステム全体の強靭化を進めている。

3. グリーンファイナンスと実装課題

WWF（世界自然保護基金）南アフリカが紹介した「グリーンバンク」モデルは、助成・コンセッショナル資金を商業資本と組み合わせることで、再エネや水資源分野への資金流入を促す仕組みである。しかし、適格プロジェクトの発掘やインパクト評価の定量化が課題とされた。気候・自然リスクの定量評価と、成果指標（KPI）の設定が今後の焦点とされた。

4. 技術的視点と設計アプローチ

議論では、デジタルツインや AI、GIS を活用した気候リスク評価の高度化が紹介された。特に、自然に基づく解決策（湿地再生・都市グリーン化など）を初期設計段階に組み込むことで、洪水・熱波などのリスクを低減し、同時に生態系価値を向上させる重要性が強調された。また、従来の「環境負荷の最小化」を超え、「再生的インフラ」の概念が提示された。

写真：シンポジウムの様子

5. 所感・今後の展望

本セッションを通じ、社会的包摂と気候適応を同時に達成するためには、政策・金融・技術の連携が不可欠であることが確認された。特に上下水道分野では、自然資本の評価やリスク情報の統合管理を通じて、よりレジリエントで包摂的な都市インフラの構築が求められる。日本工営としても、国際的潮流を踏まえ、社会的価値と技術的持続性を両立する設計提案を今後一層推進していきたい。

Panel Session 3 - How to finance infrastructure

「インフラの資金調達方法」

八千代エンジニヤリング（株）海外事業部
新地貴博

日時：2025 年 9 月 22 日（月）14:00-15:15
講演者:Linda Darr(American Council of Engineering Companies)、Penny Kneebone(Tonkin Taylor)、John Rathke（American Council of Engineering Companies）、Mike Salawou（African Development Bank Group）、Anthony Molle（Multilateral Investment Guarantee Agency（MIGA））

1. 概要

世界経済が抱える膨大な債務の中、従来の公的インフラ整備は限界に直面している。「需要は高く、資金は枯渇している」状況下で、創造的かつ持続可能な資金調達手法の探求が喫緊の要請となっている。

2. グローバルインフラ資金調達の核心的課題

- **金利上昇と資本移動：** 米国の金利上昇が新興国からの資本流出を招き、資金調達コストを押し上げている。
- **財政的制約：** 各国政府は深刻な財政的限界にあり、アフリカでは年間 700 億～1000 億ドルの資金ギャップがある。
- **政治の短期性：** 長期的なインフラ投資は、短期的な政治サイクルや党派対立に阻害されがちである。

3. 地域別アプローチ：先進国と新興国の戦略

3.1 先進国：持続可能性とガバナンスの革新：

- **米国：** EV 普及によるガソリン税の持続不可能性から、VMT や PPP を検討中。
- **ニュージーランド：** 自治体共同の借入機関によるコスト削減、政府系ファンドによる「忍耐強い資本」供給、先住民族（マオリ）との協働による社会受容性の向上、「利用者負担原則」への国民的合意形成が成功要因とされる。

3.2 新興国：リスク軽減と民間資本の動員：

- MDBs による「部分的リスク保証（PRG）」や「部分的信用保証（PCG）」が、民間投資家の参入障壁を排除。
- 受入国政府による長期安定的な法的・規制的枠組みの整備や、コストを反映した料金設定が民間セクターの信頼の基盤である。

4. 革新的資金調達メカニズム

- **「アセットリサイクリング」：** 政府保有の既存インフラ資産を民間に売却・リースし、収益を新規インフラに再投資する手法。オーストラリアの成功例は、政府間のインセンティブ、売却益の使途を大規模公共交通に限定・公約、独立ガバナンスによる透明性確保が鍵である。
- **「多様な保証と現地通貨建てファイナンス」：** MDBs は政治的・商業的リスクに対応する最適保証を提供。アフリカの為替リスクに対し、AfDB はナイジェリアで現地通貨保証機関「Infra Credit」を支援し、現地機関投資家の資金を動員している。

5. 結論：成功への道筋

インフラ資金調達の成功は、多様なアプローチの組み合わせと協働によってもたらされ、成功要因は以下の 3 点に集約される。

- **分野横断的パートナーシップ：** 金融、工学、地域社会、先住民族など、異分野間の協働が不可欠。
- **長期的な政治的意思決定と政策の一貫性：** 短期的な利益を超えたリーダーシップが、投資家の信頼を醸成し、持続的な資金の流れを生む基盤となる。
- **人間中心のアプローチ：** 地域社会との対話で社会的支持を得ることが、遅延や政治的反対リスクを減らし、投資対象としての魅力を向上させる。

The FIDIC Carbon Collaboration Initiative in practice: Measuring and managing carbon in infrastructure
FIDIC カーボン・コラボレーション・イニシアチブの実践：インフラにおける炭素排出量の測定と管理

日本工営株式会社 事業開発部
勝濱 良博

日時：2025 年 9 月 22 日（月）16:00～17:00
講演者：Mahendren Manicum (Naidu Consulting), Maria Manidaki (Mott MacDonald), Malani Padayachee-Saman (MPAMOT), Jens-Peter Saul (Rambøll Group), Ramesh Subramaniam (Coalition for Disaster Resilient Infrastructure), Susanna Zammataro (FIDIC)

1. Global Leadership Forum (GLF)

本セッションは 2021 年 9 月に FIDIC 内に設立された Global Leadership Forum (GLF)の 4 つの Think Tank 活動の一つである SDGs 関連の取組み（Carbon Collaboration Initiative と改称された模様）成果を発表するものである。GLF は世界のコンサル業界のトップメンバーで構成される組織で、日本からは ECFA の有元前会長と高梨元専務理事が参加していたが、現在は日本のメンバーは存在しないと思われる（メンバーは秘密情報）。GLF メンバー自身が課題解決のソリューションとなること、リーダーとしてコミットメントすることにより取組みが進められてきた。

2. セッション実施の背景

世界の CO2e（二酸化炭素換算量）排出量の 7 割がインフラに関係しているとされている。GLF の Carbon Collaboration Initiative では、インフラ案件に関連する CO2e 排出量計算方法の創出、再現性確保、プロセスの標準化を目的として約 2 年間検討を重ねてきた。また、近日中に Carbon Management Guideline を出版する予定としている。本セッションは、これらの経緯の説明と成果を共有するために開催された。

3. GHG プロトコルの Scope1, 2, 3

温室効果ガスプロトコルイニシアチブ（GHG プロトコル）は国際的に認められる GHG 排出量の算定と報告基準を開発して、利用の促進を図ることを目的として、1998 年に World Business Council for Sustainable and Development (WBCSD) と World Resource Institute (WRI)によって共同設立された。Scope1,2,3 は 2011 年に GHG プロトコルが公表した企業の CO2e 排出量の算定基準であり、Scope1 は直接排出、Scope2 は間接排出、Scope3 はサプライチェーン全体の排出を表す。GLF はインフラに関連する Scope3 の排出量算定、標準化を目指している。

4. ケーススタディ実施と提言

GLF の本 Initiative では Carbon Management Framework (CMF)を設定して、プロジェクトサイクル全体の CO2e 排出減少の誘導を目指している。CMF の実践例として南アフリカ、ヨーロッパ、オーストラリアでケーススタディが実施されており、この結果により CMF をより透明性の高い、実用的なものにする検討が行われてきた。パネルディスカッションでは、CMF を国際機関などの調達に取り込むこと、コンサル産業や市場の反応が重要であること、コスト高になると実施が困難になるためファイナンス案を示す必要があること、FIDIC の役割が重要であることなどが指摘された。

5. 考察

本 Initiative はデンマーク大手コンサルの Ramboll の CEO 自らが指導しており、英大手 Mott MacDonald などの参画により実施している。日本からはあいにく GLF にメンバーを出しておらず、議論に参画できていないと思われる。CMF が調達の条件になる可能性もあり、この場合、蓄積のない我が国企業は案件への参画が不利になることも考えられる。こういった活動に対する個社での取組みには限界があり、ECFA の役割は重要である。

英題：Delivering infrastructure with integrity, quality and sustainability -
leading by example to deliver a better society
邦題：誠実性、品質、持続可能性を備えたインフラ整備-
より良い社会の実現に向けて模範を示す

日本工営株式会社
上下水道設計部
瀬戸　雄太

日時：2025 年 9 月 22 日
講演者：Nazir Alli - Private, Rajiv Lall - The Infrastructure Transparency Initiative, Jonathan Morris - Turner & Townsend, Alaleh Motamedi - European Investment Bank, Manish Kothari - Sheladia Associates / FIDIC, Clarissa Rizzo - Aon South Africa

1. パネル概要

本セッションでは、FIDIC が国際的に推進する「Integrity First（誠実性を基礎とした事業運営）」の理念の下、インフラプロジェクトにおける倫理・品質・持続可能性の一体的な推進が議論された。参加者からは、設計・調達・施工・運営の全段階における透明性確保と説明責任の重要性が強調された。また、エンジニアリング企業が社会から信頼を得るためには、単に技術的成果を提供するだけでなく、社会的価値を可視化し、倫理的行動を組織文化として定着させる必要があるとの認識が共有された。

2. 誠実性とガバナンスの強化

近年の汚職・不正事案が国際プロジェクト全体の信頼を損ねている現状に言及し、FIDIC が策定した「Integrity Management System（IMS）」の活用を呼びかけた。同制度は、契約透明化、倫理教育、外部監査を組み合わせた包括的枠組みであり、特に中小コンサルタント企業が自らの信頼性を高める有効手段となる。討議では、アフリカ・中東地域での導入事例も紹介され、政府機関と民間の双方が倫理監視に責任を持つ「双方向のアカウンタビリティ」が今後の方向性として提示された。

3. 品質確保と専門性の継承

品質確保は単なる成果物の検査ではなく、組織内部の知見・判断・リーダーシップの総和であり、それを持続させる教育体系が不可欠とされた。熟練技術者のリタイアが進む中、若手育成の体系化が品質継続の要であると指摘。職能教育に加え、倫理・社会的責任・国際基準理解を組み合わせた“統合的人材育成”の重要性を強調した。

4. サステナビリティと社会的価値

パネリストからは、インフラがもたらす社会的便益を最大化するため、環境・経済・社会のバランスを取った包括的評価手法の導入が提案された。特に、プロジェクトの初期段階で ESG 指標を組み込み、定量的な成果報告を行うことが推奨された。また、気候変動への適応だけでなく、地域社会への包摂的利益の分配も重視すべきとの意見が示された。

5. 所感・今後の展望

本セッションを通じて、誠実性・品質・持続可能性という 3 本柱を実務に根付かせることの重要性が改めて認識された。インフラは技術成果であると同時に社会契約の一形態であり、信頼を基盤とする透明なプロセス設計が不可欠である。特に、透明性のある調達制度、持続的な人材育成、そして地域社会との協働が国際的に共通の課題として浮き彫りになった。日本工営としても、倫理と品質を基軸にした国際的信頼の構築に一層努めていく所存である。

英題：Panel session 2 – Infrastructure showcase – global engineering excellence and projects that are changing the way we deliver
邦題：パネルセッション２ – インフラショーケース – グローバルなエンジニアリングの卓越性とインフラ整備のあり方を変えるプロジェクト

株式会社日水コン　インフラマネジメント本部　ＤＸイノベーション事業部
プロダクト推進部　技術第二課
松本　幹太

日時：2025 年 9 月 23 日 11:45 – 13:00 (SAST)
講演者：Adam Bialachowski – B-Act SA / FIDIC (Moderator)
Nathan Marsh – Bentley Systems (Panelist)
Francois Le Roux – Nyeleti Consulting (Pty) Ltd (Panelist)
Andrea Galli – ARX (Panelist)

1. セッションの概要

このセッションでは、世界各地のインフラ整備に実質的な変化をもたらしている革新的なプロジェクトや、特定の課題に対する技術的な解決策が紹介された。

2. 各パネリストの講演内容

⑴ Nathan Marsh 氏

3D ソフトなどの最新のデジタル技術を用いて最適な設計を行うことで、環境負荷やコスト削減を実現した南アフリカのインターチェンジプロジェクトや、ニューヨーク沿岸部の洪水対策プロジェクトを紹介した。

レジリエンス（強靭性）の重要性を説くとともに、それが単なるコストではなく投資であることを強調した。

⑵ Francois Le Roux 氏

NME（Nano Modified Emulsion：ナノ粒子乳剤）を用いた南アフリカ国道R504の修復プロジェクトを紹介した。

水が道路にとって最大の脅威であり、NME によって道路を乾燥状態に保つことでライフサイクルコストの改善に有効であると報告した。

⑶ Andrea Galli 氏

ブラジルのファヴェーラにある劇場、イタリアとオーストリアを結ぶブレンナーベーストンネル、オーストラリアの揚水式水力発電プロジェクト、アルゼンチンの水処理プログラムを紹介した。

イノベーションがインフラの提供方法を変えているものの、その根本的な目的は人々に奉仕し、生活の質を向上させることであると強調した。

3. 所感

インフラ整備における技術革新が単なる技術的進歩にとどまらず、社会や環境、経済へ広く波及していることを感じた。

また、Andrea 氏が講演中にイソップ寓話の「3 人のレンガ職人」の話を交え、目的意識の重要性を説き、ディスカッションでも「なぜから始める（Start with the ‘WHY’ at the beginning）」と強調していた点は、私自身の日常業務にも取り入れるべき思考だと感じた。

今後もこうしたグローバルな知見や技術革新を積極的に取り入れ、日本国内のインフラ整備にも応用していくことが重要であると改めて認識した。

左から Bialachowski 氏、Marsh 氏、Roux 氏、Galli 氏

英題：Panel session 3 - AI and digitalisation
邦題：パネルセッション3 - AIとデジタル化

株式会社日水コン　インフラマネジメント本部　ＤＸイノベーション事業部
プロダクト推進部　技術第二課
松本　幹太

日時：2025年9月23日 11:45 - 13:00 (SAST)
講演者：Stacy Sinclair - Fenwick Elliott (Moderator)
Nicolas Miravalls - ORIS (Panelist)
Rob Morson - Pinsent Masons (Panelist)
Martina Hess - CES Consulting Engineers Salzgitter (Panelist)
Mark Coates - Bentley Systems (Video Message)

1. セッションの概要

このセッションでは、インフラ分野におけるAIの役割と、そのプロセスの最適化、コスト削減、安全性向上を通じて業界を変革する可能性について議論された。

2. 各パネリストの講演内容

⑴ Mark Coates 氏

航空トラブルにより現地参加できなかったため、ビデオメッセージでの配信となった。

業界調査の結果を「準備状況」「リスク」「リターン」の3つの観点から報告し、組織のリーダーが今すべきこととして、①人材・技術への投資、②データとプロセスの標準化、③リーダーシップとガバナンスの確立を提言した。

⑵ Martina Hess 氏

アフリカ地域におけるAI導入の現状と課題について詳しく説明した。アフリカ特有の課題として、①経営層や政治家の意識、②AI活用に必要な通信システムや電力供給の不安定さ、③高価なPC、ソフトウェア、トレーニング機会の不足、④アフリカで収集されたデータの流出（大陸内に価値が還元されない）などを挙げた。

⑶ Nicolas Miravalls 氏

インフラ業界はデジタル化で遅れているが、AIがその遅れを取り戻す絶好の機会になると強調した。

事例として、持続可能性とコスト効率を両立する意思決定を可能にする、AIを活用した環境影響評価プラットフォームを紹介した。

また、信頼できる意思決定には、プロジェクト、企業、国レベルで「一貫性」のある評価指標と方法論が不可欠であると指摘した。

⑷ Rob Morson 氏

AI・デジタル化の導入は、技術的な準備状況よりも「人間の行動」や「マインドセット」に大きく左右されると強調した。

例として、①リスクに対する考え方を「誰が責任を負うか」という後ろ向きな視点から、「信頼できるデータを活用してどのようなリスクが軽減されるか」という前向きな視点へ変えるべき、②エンジニアや弁護士など専門家は業界の変革をリードする影響力を持つべき、といった指摘を行った。

3. 所感

Morson氏のほか、モデレーターのSinclair氏も「If you're not at the table, you're on the menu.」という言葉を用い、AI・デジタル化の分野で積極的に技術を吸収・活用しなければ、大きく後れを取ることになると指摘していた。

本セッションを踏まえ、私個人、組織、ひいては業界全体が後れを取らないよう、継続的に最新技術の動向を注視し、実践に活かしていく必要があると強く感じた。

左からSinclair氏、Hess氏、Miravalls氏、Morson氏
スクリーンCoates氏

英題：Panel session 4 – Global leadership – vision given uncertain times
邦題：パネルセッション４ – グローバルリーダーシップ – 不確実な時代におけるビジョン

株式会社日水コン　海外事業部
赤坂　和俊

日時：2025 年 9 月 23 日 16:00 – 17:15 (SAST)

講演者：Alfredo Ingletti – 3TI Progetti / FIDIC (Moderator), Benoit Clocheret – Artelia (Panelist), Teddy Daka – Zutari (Panelist), Logashri Sewnarain – SMEC South Africa (Panelist), Bisher Jardaneh – AJi Group (Panelist)

1. セッションの概要

欧州、アフリカ、中東の業界リーダーが登壇し、今後 12～18 か月間にこの業界が直面する課題について、それぞれの見解を示した。地政学的および経済的な不確実性がかつてないほど高まる中、インフラ業界が世界に必要とされる安定、成長、持続可能性を提供するためのリーダーシップのあり方について議論が行われた。

2. 講演内容

⑴ Benoit Clocheret 氏（CEO, France）

地政学的な不安定さや環境対策への抵抗、デジタル化の進展、高齢化、人材不足を主要課題として挙げた。一方、新興国のインフラ需要や老朽化施設の更新には新たな投資機会があるとし、FIDIC が契約制度を通じて国際協力を促進し、社会的価値を可視化することが業界の信頼と発展につながると述べた。

⑵ Teddy Daka 氏（CEO, 南アフリカ）

アフリカが米中対立の影響を受け、投資減少や金利上昇によって経済が圧迫されている現状を指摘した。その一方で、欧州がエネルギー供給先をロシア以外に広げる動きの中、アフリカ産の天然ガスや再生可能エネルギー、希少鉱物資源への需要が高まっていると述べた。深刻な技術者不足を解消するためには、教育への投資とデジタル技術の活用が不可欠と強調した。

⑶ Logashri Sewnaraini氏（CEO, 南アフリカ）

地政学的対立、金融不安、気候変動が重なり合う状況を「多重危機（ポリクライシス）」と表現し、社会全体での対応が必要であると述べた。環境インフラを社会と経済の基盤と位置づけ、長期的な計画、将来への投資、環境と社会の両立を企業成長の三本柱として提示した。

⑷ Bisher Jardaneh（Executive Chairman, ヨルダン）

中東・湾岸諸国が巨大インフラ依存の経済から、制度改革と効率化、透明性の重視へと転換していると述べた。設備の未活用や契約見直しなど課題は残るものの、制度改革により投資環境は改善していると分析した。企業は変化から学び、柔軟に対応できる「吸収力（absorptive capacity）」を高める必要があると指摘した。

⑸ 結論

登壇者は共通して、AI 時代におけるエンジニアリングの役割を再定義し、倫理的なリーダーシップを発揮することが持続的な成長を導く鍵であると強調した。そのうえで、デジタル化と人材育成を通じて産業の競争力を高め、社会的価値を可視化する仕組みの整備することの必要が確認された。

3. 所感

今回の議論では、特に技術革新と人材育成を両立させる重要性に深く共感した。AI やデジタル技術の進化がエンジニアリングの在り方を大きく変えつつある一方で、人が持つ専門知識や創造力の価値はむしろ高まっていると改めて認識した。AI 時代だからこそ、技術を社会のために活かすエンジニアの使命と責任を強く実感した。

Alfredo 氏　Benoit 氏　Teddy 氏　Logashri 氏　Bisher 氏

英題：The FIDIC Future Leaders Management Certificate
邦題：FIDIC 若手プロフェッショナルマネジメントトレーニングプログラム

八千代エンジニヤリング（株）海外事業部 営業企画
柳原 健人

日時：2025 年 3 月-8 月（ウェビナー）、9 月 19 日、20 日（ワークショップ）
9 月 21 日（プレゼンテーション）
講演者：Michael Walker, Michele Kruger, Richard Stump 他

1. 概要・目的

本プログラムは FIDIC が主催するインフラ関連企業の若手（～40 歳目途）向けの経営トレーニングプログラムであり、約半年のウェビナー講義、FIDIC 世界大会に先立つワークショップ、FIDIC 世界大会でのプレゼンテーションの 3 つで構成されている。人材管理、組織経営、経営理念等のテーマ毎に、コンサルタント・エンジニアが直面する課題や対応策に関する理解を深めることを目的としている。

2. ウェビナープログラム

3～8 月の間に 6 回のウェビナーが実施され、各ウェビナーの翌週に有志参加によるネットワーキングセッションが実施された。修了条件は、ウェビナーごとに出題される計 6 回のケ ースタディに 3 回以上回答（200-300 文字の小論文形式）、最終試験の合格（選択式の設問 12 問中 8 問以上を得点）の 2 点である。
ウェビナーは以下 6 テーマで講義が行われた。

1	The Consulting Firm and Profit
2	Contract and Human Resources
3	Business Development and Project Management
4	Quality Management and Risk Management
5	Integrity Management System
6	Sustainability

3. ワークショッププログラム

グループディスカッションを中心としたワークショップを実施した。9 月 19､20 日の 2 日間、9 か国から 25 名の受講者がケープタウンの会場に集合した。ワークショップはアイスブレイクに始まり、ウェビナーの 6 テーマを振り返ったうえで、9 月 21 日のプレゼンテーションの準備を行った。プレゼンテーションは「Smart Infrastructure: Equality, Resilience and Innovation for a Sustainable World」いう GIC2025 のメインテーマを通して伝えたいことを発表するものであった。「Our Planet, Our Duty」のキーテーマの下、4 つのグループに分かれて作業分担し、適宜中間報告を行いつつ、全員で 1 つのプレゼンテーションを完成させた。

4. プレゼンテーション

冒頭、現在の気候変動に脅かされる世界の現状を、開催地の南アフリカ・ケープタウンを引き合いに「Day Zero」と捉え、インフラ産業に関与する者としての「Our Duty」と行動を起こす重要性について、各国の「Day Zero」事例、対策を講じる模範事例を紹介しつつ、マインドセットの転換を提起した。

5. 所感

ワークショッププログラムでは、2 日間という短い期間の中で、25 名全員で 1 つのプレゼンを完成させる必要があり、合意形成や作業分担に苦心し、試行錯誤を繰り返した。しかし発表後には、全員が全員を称賛する納得のいく着地点に到達でき、それぞれの意見を尊重し、最後までまとめあげるマネジメントの重要さを学ぶことができた。